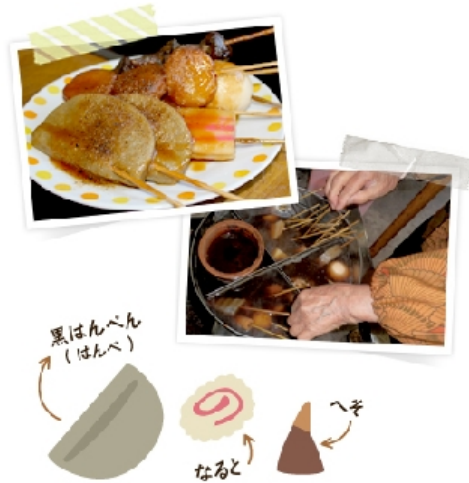


前回「や〜づ市民のソウルビュー & ソウルフード」を御紹介致しましたが、その中で一点だけ「ソウルフード」の消化不良がありました。  
 や〜づのソウルフードに並々ならぬ愛着をお持ちの読者さんならすぐお気づきのはずです。  
 それは、焼津のおでんは、あんなにすましたおでんじゃないよ！っていうこと。  
 もっと庶民的で個性あふれるソウルフードだっていうことです。

### [前回の記事「や〜づ市民のソウルビュー & ソウルフード」](#)



[一般的なおでん](#)



[焼津おでん\(観光協会HPより\)](#)

焼津では、一般的なジャガイモや大根などのほかに、生産量日本一を誇る「なると」や「黒はんぺん」などの練り製品、水揚げ高日本一のカツオの「へそ(心臓)」などを入れたおでんが古くから食べられています。  
 食堂や居酒屋だけでなく、駄菓子屋でも売られていて子供たちのおやつがわりにも、竹串に刺さったおでん種を味噌だれにつけて、お好みで出し粉、青海苔をかけていただきます。



[これぞ焼津おでん1](#)



[これぞ焼津おでん2](#)

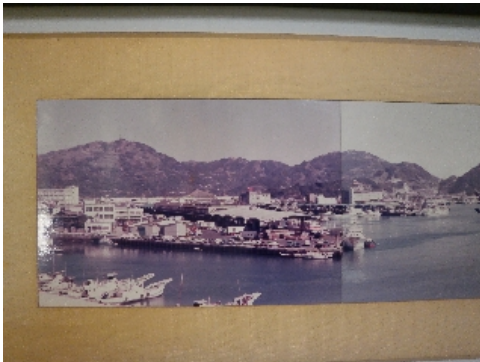
私は若かりし頃、静岡駅前に職場があり焼津駅で電車を降りると、つつい駅前の縄のれんをくぐっていました。

小柄で実直そうな親父さんと、ちょっと濃い目の化粧にパーマントをかけた明るく話し上手なママさんでやられていた店のカウンターで、味噌だれに出し粉と青海苔をかけた焼津おでんを着に生ビールをひっかけて家路についたものでした。

静岡駅前の職場を辞めて寄ることがなくなり、30年近く経った頃ふらりと寄ってみたら、「懐かしいねえ。仕事帰りに〇〇さんとよく寄ってくれたつきねえ。」とママさん。「焼津おでん」で今も忘れられない人生の一コマです。

また、焼津市にはおでん好きが高じて焼津おでんをキーワードに、焼津のまちづくりを進めている市民団体『焼津おでん探検隊』までも結成され、市内近郊の多くのイベント会場で焼津おでんの味と匂いを振りまいてイベントを盛り上げている程、“おでん文化”が沁みとおっているのです。

そして前回、や〜づ市民のソウルビューとして焼津から見る富士山を御紹介しましたが、シニア世代の皆さんには特に懐かしいこの風景を御紹介します。



[昭和30年代の焼津魚市場全景1](#)



[昭和30年代の焼津魚市場全景2](#)

かまぼこ型市場として長いこと市民に親しまれてきた焼津魚市場です。この写真は、旧焼津港の近くにある焼津漁業資料館の二階展示場に掲示されている物を撮らせて頂きました。こちらには、明治・大正・昭和と焼津港がどの様に変遷してきたか、また古き焼津市街の様子や、活動弁士の看板が立っている映画館の貴重な写真とか、郷愁を誘う写真や当時使われていた漁具や絆纏(はんでん)なども展示されており、いにしへの焼津にタイムスリップできます。



[焼津漁業資料館](#)



[今は一軒もなくなった映画館](#)

昭和の好景気を背景に焼津港も華やかな一時代がありました。男たちは田端義夫や藤島桓夫などのマドロス姿に憧れ、三橋美智也や春日八郎、島倉千代子やこまどり姉妹など。当時の一流歌手が次々に来焼して、この市場で歌謡ショーが行われ、五色の紙テープが飛び交い、そして漁師たちもまた、五色の紙テープで家族や友人たちに見送られ遠洋漁業に出航して行きました。私は、当時まだ子供で、キレイな紙テープが欲しくてよく見送りに行ったものでした。そして、森進一の『港町ブルース』が流行っていた頃は、焼津を離れ、ふるさとを想いながら一人都会の片隅で“港 三崎・焼津に御前崎”と口ずさんだものでした。

焼津魚市場は、老齢化が進み、建物を存続させるか撤去するのか、論争が巻き起こりましたが残念ながら撤去され、今は「魚市場会館」だけが残存し、“焼津みなとまつり”などのイベント会場として使われることになりました。





[昔の面影残る魚市場会館](#)



[イベント会場と停泊船](#)

そして、新たに造られた焼津魚市場新屋売場を中心に、焼津港の2020年（令和2年）の水揚げ額は全国1位（412億円）を誇り、ますます発展を続けています。  
 また新屋売場と小川港の間には、漁業に関係する人だけでなく、たくさんの人に漁港やシーサイドライフを楽しんでもらう施設を造っています。  
 潮だまりや噴水、釣りのできるフィッシングゾーンの“親水広場ふいしゅーな”。ビーチスポーツが楽しめる“多目的砂広場”。展示を見ながら、駿河湾や深層水について学ぶ施設“深層水ミュージアム”。焼津の美味しい料理を気楽に楽しみ、帰りのお土産もゆっくり選べる”うみえーる焼津”等々。



[うみえーる焼津](#)



[やいづ観光パンフレット](#)

シニア世代の皆さん。「懐かしい昭和」と「未来につなげる令和」の混在した海辺の街・焼津に【焼津おでん】を食べに、ぜひお越しください。  
 コロナウイルス感染の収束はもう少し先のようです。  
 家に引きこもるだけでなく、たまには新鮮な潮風を胸いっぱい吸い込んでリフレッシュして免疫力アップを図ってください。  
 くれぐれもマスク着用で、三密を避け、手指の消毒をまめにして、なるべく少人数でお越しくださいませ。

☛ 観光施設・店舗等の営業情報は焼津市観光協会  
[『焼津市観光協会ホームページ』](#) 又は TEL 054-626-6266  
 でご確認ください。

☛ 焼津漁業資料館への問合せは・・・  
 焼津漁業協同組合 焼津漁業資料館  
 住所 焼津市中港二丁目6番13号  
 開館時間 午前8時30分から午後4時30分まで（正午～午後1時を除く）  
 休館日 日曜日・祝日・焼津神社大祭（8月11日～15日）  
 年末年始（12月30日～1月3日）  
 入館料 小人無料 大人300円（ただし、焼津市内在住の方は無料）  
[『焼津漁業協同組合 焼津漁業資料館ホームページ』](#)  
 をご覧ください。